破天荒
教宣部
5063号
2019年
6月14日
化学一般京滋地本
全竹中労働組合

2019夏季一時金

2．57ヶ月！

先日は七月五日に支給される夏季一時金の統一回答指定日でした。回答月数は二・五七カ月、オプトの好業績に支えられました。

電子では

納期遅延問題・欠品問題は解決しつつある。基幹システムの本稼働（二次稼働については）営業まで含んで稼働できてないという意味では時期が未定である。売り上げは一割ほど昨年同期比増収となったが、外部費用（外注費・部品代）が二割ほど増え、経常利益が四割減少したとしています。

外部費用の要因は歩留まり悪化と在庫量を増やす方向に舵を切ったことにあるそうです。何ら働く私たちに原因があるわけではなく経営者のバランス感覚によるものだと主張しました。

システムでは

鉄鋼や半導体業界などから検査機の需要が高まり増収増益となった。

経常利益で言えば藤川社長の居られた十一年ほど前までのレベルに回復しました。

オプトでは

検査装置・画像処理が伸びた。メディカルは横ばいで維持している。

経常利益で言えば電子を超える存在で、高い水準を維持紙ながら推移しています。

計算月数

三社経常利益と人員による計算月数は

三社合算	二・五四カ月
電子	二・三六カ月
システム	二・五四カ月
オプト	三・〇六カ月

吉田顧問が労務担当であった頃の説明の根底は経常利益が黒赤トントンなら、夏は二・一五カ月、冬は二・四五カ月。業績配分として対象期間の経常利益を組織図の右上表にある合計人数で割って〇・三%を加算（または減算）する。非組合員には個人毎に±〇・二カ月の査定をするというものでした。

計算と回答月数の差異は十六年夏から発生していますが、〇・〇三カ月の倍数のズレはここから来ているのかもしれません。

有効在庫の考え方

新システムにて有効在庫についてご説明があった模様です。

一般的な有効在庫の考え方

『倉庫在庫』－『受注数』＝『有効在庫』

新システムの考え方

『倉庫在庫』＋『手配数』－『受注数』＝『有効在庫』

これを通称『潜在有効在庫』と言われるみたいです。

このことから生産部としては倉庫在庫は無くてもキッチリと先々の手配をしており潜在的には在庫は有る？と認識しており問題はなく仕事をしているらしいです。果たして先々の手配数を有効在庫として考えて良いものなのでしょうか？

この考え方は在庫が有り、納期を守れて初めて成り立えであり、現状は在庫も無い、納期遅延をいまだ起こしている最中にこのような説明をしても誰しも納得するとは到底思えません…。

ただ打ち合わせに出席されていた方々はこの内容に意見する方はおられなかったようなので納得されたんでしょうね…。

『天声竹語』

・「やってみなはれ」とてもやないが「やってみなはれ」なんて雰囲気ではありません。

私（上司）が責任とるから「やってみなはれ」ではなく、責任はアナタの「やってみなはれ」これは「やってみなはれ」なの？。

・過去を自慢するのは進歩が止まった証拠。

・平凡な上司は言って聞かせる。よい上司は説明する優秀な上司はやってみせる。しかし、最高の上司は部下の心に火をつける。

・「〇〇のお知らせ」

退職のお知らせ、入社のお知らせ、定年退職のお知らせ・・入社する方は派遣さんやパートさんばかりしかも入社して数カ月で退社この数年提唱している。

「非属人化」が定着しつつある弊社では、社員が短期で入れ替わろうが少々正社員が減ろうが業務に全く支障はないと信じている。